

# STYLING

## MONO

JBLのルーツとなるラウドスピーカー製造メーカーである「ランシング・マニュファクチュアリング・カンパニー」がスタートしたのは1927年のこと。このとき、創業者のランシングは自らの名前をジェームス・パロー・ランシングに変更したという。



### VOL.52 JBL SINCE 1946~

●[JBL]

Photo / Harman International Japan

Text / Teruhiko Doi (WPP)



アルコールと禁煙が充満する  
暗い室内で、圧倒的な音量の  
ジャズが炸裂する。

60、70年代のジャズBARは、  
大人の空間だった。

誰も大声で話すことなく  
静かに音楽に聴き入る。

それはジャズという

高度な音楽への尊敬であり、  
同時にその臨場感を

余すことなく伝える

ひとつのスピーカーに対する、  
畏れのような感情も

確かにあったのだと思う。

だから当時のジャズファンたちは  
JBLを我がものにしようと

躍起になった。

やがてその静かな熱狂は、  
ジャズファンだけに止まらず、  
オーディオファン全体に

広まっていった。

かつてこれほど一つの  
スピーカーブランドが愛された

時代はなかったはずだ。

JBLを所有することは、  
クールな音楽的ステイタスを

手に入れることでもあった。

「スピーカーは何を使っています？」  
「4311です」

あえてJBLを省略する  
その気取ったもの言いこそ、

オーディオが

最も優雅な趣味であることの  
証左に他ならない。

# STYLING

## MONO

パラゴンの音響工学的な構造を考えたのはリチャード・レンジャー。アメリカ陸軍通信隊大佐。レンジャー大佐は、映画産業の黎明期から、映画音響技術において数多くの画期的な業績を上げた人物でもある。



家具としての存在感もあるパラゴン。その誕生期はデザイン史におけるミッドセンチュリーモダンの時代。湾曲した木部にはイームズ夫妻が形にした成型合板技術が生かされている。

名機「パラゴン」が生まれたのは1957年。1948年に登場したLPレコードは当初モノラルであったが、このパラゴンが生まれた57年当時はモノラル録音のレコードがステレオに変わる過渡期だった。パラゴンの構造は、ユニークな家具的シルエットの中に2台のスピーカーを配し、中央部が前面に向かって湾曲し、中高音を鳴らすホーンが前面に向け放射されることで、指向性をコントロールするという画期的なシステムである。これだと、室内における試聴位置が、スピーカーの軸上から多少ずれても、ステレオの音像を正確に再生できる、という利点もある。同時に、モノラルレコードを鳴らしたときに、ステレオ的な音響効果を持たせることもできた。つまり、その時代の音楽を聴く環境を考え抜いて製作されたスピーカーだった。ステレオ時代の幕開けを飾ったこの「パラゴン」は、当時のハイファイ愛好者に大人気になったという。



整然とした工場内で製造されるJBL製品。創業者のランシングは、販売した後のメンテナンスまできちんと考えた製品作りを行っていたという。



カリフォルニア州ノーリスリッジに所在するJBLの本社工場。1980年当時の写真。

パラゴンが製造されていたのは1983年くらいまで。音響プロダクトというよりは、大型楽器工房で製造される特注の楽器、というのが正しいかもしれない。なかなか鳴らすのが難しいスピーカーだが、その音色は絶品。中古市場やオークションなどでたまに出品されているのを見かける。

# STYLING

## MONO

ホワイトハウスにパラゴンが採用された話は有名だが、主な一流どころのスタジオモニター、ヤンキースタジアムやドジャースタジアム、アカデミー賞の授賞式会場であるハリウッドのコダックシアターなど、JBLはあらゆる音響施設で採用されている。オバマ大統領就任式のモニターもJBL製だった。



# 自分だけのJBLを手に入れる喜びは、大人としての誇りでもある

狂騒の20年代、アメリカでは、ジャズ・エイジ、と呼ばれた時代だ。現在まで続くアメリカの大量消費時代、マスメディア時代の幕開けでもあり、第一次世界大戦終結後のヨーロッパへの輸出経済による、空前の好景気に支えられていた時代でもある。ニューヨークには高層ビルが建ち、トーマス・エジソンが発明した電気は暗い夜の街を明るく染め上げ、ダンスミュージックとしてのジャズが演奏され、その演奏を録音した音楽が初めてラジオから流れた。

世に名高いスピーカーブランド「JBL」の創始者、ジェームス・パロー・ランシングは1902年に生まれ、この20年代にはソルトレイクシティのラジオ放送局で技師として働いていた。その頃、彼はすでに初期のラジオ放送における音質の悪さを何とか改善しようと考えていたらしい。1927年にはJBLのルーツとなる「ランシング・マニユファクチュアリング・カンパニー」を興し、スピーカー・ユニットの製造を始めたが、創業間もない1929年に大恐慌となり、困難な経営状態に陥る。ただ、この時代は映画産業における革命的な出来事、トーキーが始まった時代

でもあった。何本かのミュージカル映画が大ヒットし、その成功は人々の関心を映画の音質へと向けさせた。もちろん、映画の内容が重要なことはいまでもないが、その判断基準の中に、音、が加わったことは、ランシングの会社にとっては追い風であったに違いない。事実、MGMSタジオの劇場用音響装置の製作にランシングが招かれ、1934年に「MGMSチャラー・ホーンシステム」を製作。その年の映画芸術科学アカデミー賞の受賞という名誉を手にしたのである。このシステムは映画音響技術の世界では大きな技術革新として記録に残されている。

1930年代後半から40年代初頭にかけて、ランシングの会社は再び経営難に陥り、今度はアルテック社に吸収合併される。そして劇場用システムとして名高いA-4型システムを開発。60、70年代の日本でJBLと人気を二分したスピーカーブランド「アルテック・ランシング」はこうして誕生した。日本ではモニタースピーカーの「A604」で知られている。1946年になるとランシングはアルテック・ランシング社を離れ、二度目の独立を果たす。ただア

## 【語り継がれる名機】

### PARAGON パラゴン

1957年に登場した名品。デザイナーはアーノルド・ウルフで、彼はこの「パラゴン」の大ヒットによって後に、ウィリアム・トーマスに続くJBLの3代目社長の座に就任することになる。「パラゴン」は音響学的にも非常にユニークな構造をしており、家具とオーディオの融合を果たした初めての製品であったともいえる。モノラルレコード時代とステレオLPレコード時代を繋ぐ、歴史的な傑作である。



### HARTSFIELD ハーツフィールド

まだ、無骨なだけのスタイリングがほとんどだったスピーカーの世界に、初めて工業デザインのセンスを投入して、一般家庭のリビングに美しく佇む製品として1952年に登場。当時、工業デザイナーとして高名だったロバート・ハーツフィールドがチーフデザイナーとして製品デザインを担当。アメリカではこの「ハーツフィールド」を嚆矢として、プロ用の最高級ユニットが家庭の中に持ち込まれ始めた。



### PROJECT EVEREST プロジェクト エベレスト

チーフエンジニアのグレッグ・ティンバース、プロダクトデザイナーのダニエル・アッシュクラフトら、JBLチームともいうべき優秀な技術者たちが終結して1985年に「DD55000」を発表。そして2006年に最高峰の「DD66000」を創立60周年の記念モデルとして発表した。現代版のハーツフィールド、パラゴンの完成を目指して製作されたその圧倒的な存在感とサウンドは、最高峰と呼ぶにふさわしい。



### PROJECT K2 プロジェクトK2

エベレストと共に、現代版のハーツフィールド、パラゴンに匹敵する最高峰を目指して開発がスタート。1989年にはダグ・バトンを招聘して「プロジェクトK2 S9500」を完成（左の写真）。1991年には「プロジェクトK2 S7500」、'92年に「プロジェクトK2 S5500」、2001年に終極技術と評される「プロジェクトK2 S9800」を完成させた。プロ用の最高クラスの技術を一般家庭で味わえる贅沢なスピーカー。



Photo / WPP Archives (at Candy 2008)

# STYLING

## MONO

JBL製品に関するお問い合わせは  
ハーマン・インターナショナル  
☎03-3836-5660  
<http://www.harman-japan.co.jp>



カリフォルニア州ロサンゼルス郊外に所在するノースリッジのJBL本社。右の写真は創業者のジェームス・バロー・ランシング。



プロジェクト・エベレスト「JBL DD67000」/  
同社の名機「ハーツフィールド」や「パラゴン」の  
フォルムをモチーフとして、大胆に曲線を取り  
入れたデザインが特徴。カラーバリエーション  
としてローズウッド、チェリー、エボニー、メイ  
プルがある。価格315万円(1本)



4365スタジオモニター / JBLにおける永遠のスタンダードとは43シリーズであり、同時に15インチウーファー+コンプレッション・ドライバーというシステム構成を指す。時代に則した新素材の採用にも積極的。あらゆる音楽をJBLの音で再生する。価格84万円(1本)



プロジェクトK2「S9900」/エベレスト・シリーズと比肩する同社のフラッグシップ・モデル。JBL初の高純度マグネシウムダイアフラムを採用。そのサウンドと存在感は、新世代のJBLにふさわしい。マホガニー仕上げと、セブラウッド仕上げが用意されている。価格194万2500円(1本)